成長

編集＜総　務＞
発行人 赤　江　弘　之
発行所 岡山市東区
西大寺中野 543-2
日本同盟基督教団
西大寺キリスト教会
電話(086) 943 - 7552

教会標語　私たちは御霊によって生き歩む。（ガラテヤ5: 25）

「私が私として生きるということ」

牧師　佐野泰道

「サラリーマンの時代は終わった。」テレビを見ていて、「え～っ」と思いました。この言葉は、ユニクロでおなじみのファーストリテイリング社長　柳井正氏が、テレビ東京系列「カンブリア宮殿」に登場した時に語ったものです。ユニクロでは、新入社員が平均して二年、早い人ではわずか半年で店長になるそうです。これは、「サラリーマンは個人経営者になるのが理想」という社長の方針と結びあう言葉です。

私の関心は、「今は、どういう時代なのか」ということです。特に、自分の世代から二〇代前半の人たちの傾向を読みたいと思っているのです。時代を知ることは、自分を知ることにもなると確信しています。ユニクロの場合、人の言うことを聞くだけの人を育てようとしているのではなく、自分がそこで判断できて、采配が出来る人を育てようとしているようです。つまり、主体性を持てるように励ましているのです。

この背後には、今の時代は誰もが主体性を失っているという、ある種の時代の見方があります。つまり、この時代には、人の顔色を気にして傷つけないようにしたり、空気を読むことは上手にできるが、主体的な生き方ができない人が多いということです。ユニクロのような企業は、そのような主体性を欠いた人材では不況を乗り切ることができないという見方をしているのです。

では、主体性のある人とは、どんな人でしょうか。「そこにある枠組みを大事にしながら、新しい局面を開く判断ができる人」と言えるでしょう。「枠組み」とは、上の人が言ったことや全体で決めたことです。主体性という名のもとに枠組みを無視したら、組織は崩れてしまいます。だからと言って、前例だけを基準にして、前例がなければしないということでは新しい局面は生まれません。新しい局面を切り開く勇気のある人こそ、主体性のある人と言えるのです。

神様は、人を創造されたときに主体性も与えられました。神様は、人をそれぞれに個性的な存在としておつくりになり、それぞれの自由な意思を重んじられるからです。しかし、罪による影響によって、その主体性は姿を変えてしまいました。たとえば、蛇に誘惑されて善悪の知識の木の実を食べてしまったアダムとエバのように互いに責任をなすりつけ合ったり、ヨセフの兄のユダのようにリスクを背負うことを避け、責任逃れをしたりするようになったのです。

主体性のある人となっていくためには、神様の言葉による教育による成長が欠かせません。イエスさまは、「あなたの隣人をあなた自身のように愛しなさい」（ルカ一〇・二七）と言われて、私たちが本来持っていた主体性を回復する道筋を示してくださいました。私たちは、みことばに教えられていくことを通して、自分の主体的な意思で神様を愛し、人を愛するのです。これこそ、「神さまに造られた本来の私」として生きることの証しです。私たちは、教会につながることを通して、みことばに教えられる機会をたくさんいただきます。イエス・キリストを信じるとは、事ある毎にみことばから教えられていく、教育的な人生を送るということになるのです。

みことばによる教育的な人生は、私の中に一本の軸をつくります。その軸は、繰り返しみことばに教えられることによって、形作られ、ますます強くされます。そうやって形成されたみことばによる軸こそ、私が主体的に生きるための土台であり、また確信になるのです。

※ 次ページへ

※ 主にある主体性の回復は、「神様に造られた本来の私」として生きることへと向かうのです。